

# らいぶ 創 REATOR

NO.45  
2009年5月  
研究広報誌

学びの質の高まりをめざして

## CONTENTS

|                                |         |
|--------------------------------|---------|
| 発刊にあたって「変化の胎動が聞こえる附属小の研究 2009」 | 1       |
| 学校提案「本年度の研究について」               | 2・3     |
| 教科部紹介                          | 4・5・6・7 |
| 教育研究発表会案内等                     | 7・8     |

## 変化の胎動が聞こえる附属小の研究 2009

和歌山大学教育学部附属小学校長・川本治雄



2009年度がスタートしました。この広報誌「LIVE創REATOR」(らいぶつくりえいた-)は、附属小学校の教育の重点をお知らせしながら、新しい教育を考える契機になるよう発行を続け、今回45号を迎えました。

本年度の附属小学校の研究は、「学びの質の高まりをめざして～課題に向かう対話を深める～」というテーマのもとに、子どもの実態をふまえながら、昨年度の研究実践から見えてきた課題へのアプローチを図っていきます。この取り組みを進めるにあたって、子どもの変容・成長に目を注ぎ、変化の足跡を丁寧に且つ正確に把握し分析しながら、着実に進めて参りたいと考えています。今までの研究テーマのもとでの取り組みの成果や課題を整理し、教材との関わり、自己との関わり、他者(学習集団)との関わりを通して互いに対話をくり返すことによって、活発な意見交換の中にも、落ち着いたきのある思考をくぐった豊かな学び合いを追究していくという方向性を大切にしながら、本年度の取り組みを始めました。

私は、社会科という教科を通して実践研究を進めてきていますが、私の観点で検討しますと本校の教育全般を次の6点に特徴づけることができます。第1は、異学年・少人数による学びの追究です。和歌山県における複式学級設置校と交流しながら複式教育を異学年・少人数教育という特性に焦点化した取り組みを進めています。第2は、少人数教育(40人を上限とした30人学級)の試行研究に着手し3年目を迎えたことです。教育効果の検証とカリキュラムの開発を進めていきます。第3は、英語活動の全校的な取り組みです。ネイティブ講師と担任のT・Tによる実践的なコミュニケーション能力を伸ばす活動を展開しています。第4は、保護者のボランティア活動による学校教育活動への参画です。「読み聞かせ」や生活科に位置づけた「和み(なごみ)プログラム」等の積極的な関わりを、カリキュラムに位置づけて進めています。第5は、蔵書のコンピュータ管理や蔵書数の拡大、非常勤司書の配置など図書館教育の充実です。子どもの「本に親しむ」「本を大切にする」等の意欲や態度を育てる図書館教育を大切にしています。第6は、ICT機器の充実・活用を図ってきたことです。教材の提示一つを取り上げて、ICT機器の活用を含む多様な選択肢の中からよりよい方法を選ぶことのできる学習環境が整いつつあります。

今、実践研究の内容が、それぞれの教科や分野で積み上げられつつあり、附属小学校が大きく飛躍する気配を感じているところです。公開研究会を実施し、授業公開に基づく授業研究会をはじめ、教材に関わる基礎的な研究や教育内容と教育方法に関する研究など多くの先生方との「対話」を通じた研究のあり方にも着目しながら実践研究を推進していく所存です。

6月の複式授業研究会を始め、7月の夏季研修会、10月の教育研究発表会、来年1月のICT活用研究会など、節目節目に多くの先生方のご意見を聴きながら、ゆっくりと、しかし着実に研究会の成果を確認し、互いに共有していきたいと思っております。多くの皆さんの来校を心よりお待ちしております。

## 学びの質の高まりをめざして ～課題に向かう対話を深める～

研究主任  
中井 章博



### 1. 研究主題設定にあたって

我々はこれまで、「学び」を対象・他者・自己と対話することで熟成される三位一体の活動であると考え、実践を重ねてきました。「授業の成立」から「学びの成立」への意識転換を図り、子どもに寄り添い、一人一人の学びから学級全体の学びを見るという考え方を採ってきました。さらに、正しい価値判断をもつこと、主体的・創造的な行動ができる資質や能力を育てることを目標に、学びの過程を重要視することで、子どもたちがより対象の本質や価値、真理などに迫ることができるようにしてきました。

今年度はさらに、「ジャンプのある学び」を追究するために、「聴き合うかわり」に加えて、「考え合うかわり」、「探究し合うかわり」を授業の中に創造していく必要があると考えました。2つのかわりは小グループの活動をもっと活用し、協同的なものにする事で創られていくと考えます。また、子どもたちが向かう課題を工夫し、子どもたちの内面に課題を解決しようとする動機付けが行われる必要があります。そうすることで、対象に共に向かうとし、「考え合うかわり」「探究し合うかわり」が生まれ、子どもたちの対話の深まりにつながるのではないかと考えています。

### 2. 今年度の研究主題

上記のことを踏まえ、どの子どもも授業に前向きに参加し、自己の課題に向かうことで、自分の力で学び取ったという喜びを実感できる授業をめざします。その中に対話の深まりを生み出したいと考え、今年度の研究主題を次のように決めました。

## 学びの質の高まりをめざして ～課題に向かう対話を深める～

### 3. 「学びの質の高まり」とは

#### (1) 「学びの質の高まり」を支えるもの

我々は、これまでの研究において、「学びの質の高まり」を支えるものとして、「学級風土」を創ること、みとりと支援を積極的に行うこと、プロジェクト型学習を創ること、そして小グループによる協同的な学びを進めることを大切にしてきました。

今後もこれらを土台として「学びの質の高まり」をめざしていくことに変わりはありません。そして、ジャンプのある学びを追究するために、「小グループによる協同的な学び」に焦点をあてます。なぜなら、対話を深めるためには、全体で話し合うよりもグループで一人一人が責任をもって話し合うことが有効であり、一人一人の学びを保障することもできるからです。グループでは違う考えをもつ子どもが、互いに自分の考えをぶつけ合うことから、新たな気づきが生まれたり、自分の考えを改めたり、互いの考えを認め合ったりすることで対話が深まります。そして、グループの中で仲間や仲間の考えを大切にされた共感的な関係が育まれ、共に協力して創り出そう、探ろうとする学びが構築できると考えるのです。

#### (2) 三位一体の対話

子どもは自らの意思で目の前にある対象とかかわり、対象のもつ意味を明らかにしていこうとします。他者もまた、対象への興味をもち対象のもつ意味を探ろうとします。そこで他者の対象に対する思いや願い・考えに触れ、似ている点や違う点を明確にしていきます。そして、他者と考えや思いを擦り合わせることで、多くの視点からのものの見方や考え方を得ていくのです。

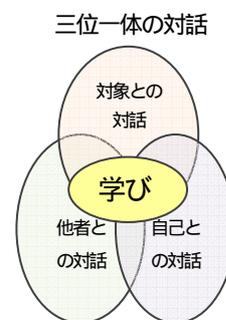
このように、学びは、対象・他者・自己と対話することで成熟していく三位一体の活動であると考えています。それぞれの対話は独立したものではなく、他の対話ともつながりながら進むものであると考えています。

#### (3) 認識を更新すること

「学びの質の高まり」は三位一体の対話の中で、以下のような対象・他者・自己への認識を更新することにより生まれると考えています。

#### 対象への認識を更新すること

今までもっていた対象への思いや願い・考えが、三位一体の対話の中で、「実は～だった。」「やっぱり～だった。」というように更新されます。対象にたっぷりかかわるだけでなく、多様なものの見方・考え方が絞られ、ひろげられ、分類・



# 提案

整理されていくことで、余計なものがそぎ落とされ、新たに必要なものが追加され、子どもは対象への認識を深めます。

## 他者への認識を更新すること

他者との対話によって、他者の学びの姿勢に共感し自分に活かせたり、他者の思いや願い・考えに共感し共有できたりしたときには、対象の意味を捉え直すことができます。

また、協同的な学びから、他者の思いや願い・考えにじかに触れ、「～の考えをもっていた～さんが～と考えるようになった。」といった、共に学ぶ仲間の学びの変容までも認識します。そうして、仲間のよさに目を向けると同時に、他者の存在の大切さに気付くようになるのです。その際、謙虚に聴こうとする姿勢、共に学ぼうとする姿勢が育つのです。このように、他者への認識を更新することによって、集団としての学びの質が高まっていくのです。

## 自己への認識を更新すること

自己への認識を更新するとは、自分は対象をどのように認識できるようになったのか、自分は他者をどのように思うようになったのか、自分がどのように変容したのか、ということを知ることです。自己への認識を更新していくことは、自己の成長を認識することであり、加えて自己がまだ認識できないことを認識することでもあります。だから、自己への認識を更新することは、問い続け、学び続ける子どもたちには必要不可欠であると考えます。

## 4. 課題に向かう対話とは

### (1) 学習課題を自己の課題へ

学びを成立させることに、学習課題は非常に大きな意味をもちます。なぜなら、学習課題が、簡単に解決できるものであれば、対話が深まることはなく、学びの質の高まりも見られないからです。

加えて、授業における学習課題は、子どもたちから生み出されてきた問題から設定することが望めます。そして、我々は、子どもたちが対象にどのような問題意識をもっているか、その教材の内包する価値は何か、ということを的確に把握し、ジャンプして手の届くような学習課題、多方面からのアプローチが可能な学習課題を設定すべきです。

また、対象に対して子どもたちがもっている問題から生まれてきたものや、教材の価値を獲得するためのもの、教材の発展性を考慮した概念形成を意識したもの、子どもたちの主体的・創造的な行動ができる資質や能力を育成するためのもの、そして、教師がその教材でつかませたいものなどを総合的に見て設定する必要があります。そうすることによって、子どもたちが考え合い、探究し合える協同的な学びが生まれると考えるのです。

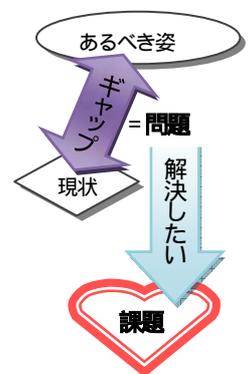
### (2) 対話を深める

我々は、現状とあるべき姿との間にできるギャップを問題と捉え、子どもたちがそれを「解決したい、改善したい」と思ったときに、問題が自己の課題に変化すると考えます。

自己の課題をもって対象と対話することにより、それまで漠然としか捉えられていなかった対象を、ある視点をもって見たり考えたりできるようになります。協同的な学びにおいては、他者と課題を共有することにより、焦点を絞った対話が期待できます。そこでは様々な見方や考え方に触れることによって葛藤が生まれ、以前よりも深く対象を認識することができます。また、課題を設定した時点での自己と、課題解決後の自己の変容を認識すること、さらに、その認識を更新していくことによって、学びの質が高まるのです。

そして、子どもたち一人一人の「課題を解決したい」という思いが強ければ強いほど、考え合い探究し合う学びが構築できると考えます。

そこで今年度は、ジャンプのある学習課題を設定し、子どもたちが自己の課題として位置づけることによって、対象・他者・自己との対話を深めることに挑戦します。



## 5. 「確かな学力」を育む

我々が大切にしたいのは、学びの過程における、問題を考え続けようとする力やそこで育まれる「創造的な思考力」や「豊かな表現力」、「的確な判断力」といった主体的な能力です。21世紀の知識基盤社会を生き抜く子どもには、正しい価値判断や主体的・創造的な行動ができる資質や能力をもつことが望めます。そのためには、対象の本質や価値、真理などの獲得という学びの結果得られるもの以上に、学びの過程が重視されなければなりません。課題に向かって、三位一体の対話を行う中で育まれる主体的な能力こそ、自分の身の回りにあるさまざまな問題を切り開いていくために必要だからです。また、考え合い、探究し合う、協同的な学びをすすめることで、「課題発見力」、「課題解決力」を育んでいきます。

これらの確かな学力は、子どもたちがこれから学び続け、生活していく上で、生きてはたらく力になるのです。

# 教科部★紹介

国語科

## 「発想力」「論理力」「表現力」を育てる

～豊かな言語感覚に根ざした対話を通して～

テキストに直接書かれていない部分を文脈から想像することにより「発想力」が育ちます。言葉と言葉、文と文のつながりを考える中で「論理力」が育ちます。そして、表現の微妙なニュアンスなどを検討して、実際に他者との対話の中で使うことによって「表現力」が育ちます。



須佐宏・中西正子・北川勝則・西村充司

そして、この「発想力」「論理力」「表現力」こそが、質の高い学びを支える力となり、実際の生活で活用できる生きた力となり他教科・領域での対話に活用できると考えます。国語科における学びは、さまざまな言語活動の中で相手、目的や意図、多様な場面などに応じて選択する言葉の適否を直感的に判断したり、話や文章を理解する場合に、使われている言葉が持つ味わいを感覚的にとらえたりする豊かな言語感覚に根ざした対話により、より質の高いものにできます。また、「発想力」「論理力」「表現力」を育てることで、豊かな言語感覚が育つという相互作用も期待できます。

今年度も、夏季研・研究発表会・ICT研等で、提案内容を具体的な授業でお見せしたいと思います。

社会科

## 一人ひとりの学びの充実をめざして

～ひとり学習を全体学習の場面へ～

社会科の全体学習の中で友達の考えを聞き、自分の考えや思いを出し合う中で“学びの質の高まり”を目指しています。より深まる全体学習につなげるためには、ひとり学習の充実を大切にしたいと考えています。昨今、社会的事象は複雑化し、「ひと・もの・こと」に関する価値観も大きく変化しています。社会の問題を自分にかかわりのあるものとして受け止め、一人ひとりがこだわりをもって追究していく学習をすすめていくことが大切です。

どこかに、いいネタはないかな？



梶本久子・片桐宏

そんな願いをもちながら、子ども同士が対話をしながら、楽しく、きびしく社会科学習を深めていきたいと思っています。今年度もよろしくお願ひします。

生活科

## 「自立をめざして」

～自己の思い・願いがいきる協同的な学びを進める～

昨年度は“和み”カリキュラムを実施し、子どもたちが、「自分も心地よい・相手も心地よい」かわり合いに気づくことができました。今年度の生活科では、さらにその「気づいたこと」を子どもたちが自分の生活に活かすことをねらいます。これは自立へ基礎の手立てになると考えます。そのためにも、子どもたちが対象へ深くかかわることで生まれる、思い・願いがいきる協同的な学びを進めていきます。また生活科を中心として、国語や図工など各教科と関連づけ、子どもたちの表現方法や活動内容を広げていける取り組みを進めていきます。



居澤結美

# 教科部★紹介

算数科

## 子どもがつなげる算数科学習

～ 自己内の「ずれ」を認識して～

算数科では、算数的活動を取り入れた学習を通し、子どもの思考の「ずれ」を生かしながら子どもが互いに「つなげる」学習をめざして取り組んでいます。昨年度は、子ども同士が絵や図、表や式を用いて表現した思考の「ずれ」に着目し学びの質を高めてきました。本年度は、昨年度の実践を発展させ、自己内の「ずれ」に焦点をあてて学びを考えていきます。例えば、新しい問題に出会ったとき、既習事項で身につけた考え方（前の自分）で問題解決にのぞみます。友だちの考えと交流する中で、新たな考え（今の自分）を獲得します。「前の自分」と「今の自分」との「ずれ」を認識し明らかにすることで、学びを深めていきます。そのような経験を通して考えることを楽しめる子どもに育てたいと考えています。



北原博男・宇田智津・土岐哲也

理科

## 自然の“文脈”をさぐる子どもを育てる理科学習

～ 思いや考えを共有させることで～

私たちは、自然の事物・現象の「筋道や背景」をさぐる学びを自然の“文脈”をさぐる学びとして研究しています。より深く、より親密に自然を見つめ、自然を大切に、自然を愛する子どもに育ててほしいと考えています。“文脈”をさぐることで、子どもたちは自分の見方・考え方をより科学的な見方・考え方へと更新していきます。どっぷりと対象にかかわれるようにし、考えたり説明したりする活動を大切にしています。そして、表出された思いや考えを共有しながら、自然の“文脈”をさぐるにより、学びの質が高まっていくと考えます。

理科部では、昨年度から学習指導要領の改訂に際して、新単元の開発にも取り組んでいます。いっしょに考えていきませんか？



馬場敦義・中井章博

音楽科

## 「比べる」ことでせまる音楽の魅力

～ 思いや意図をもって表現できる子どもに～（1年次）

音楽科では、子どもたちが質の高い音楽的な力を身に付けるために、「比べる」をキーワードに表現及び鑑賞の楽しい活動を通して、音楽の魅力にせまります。

思いや意図をもって表現できる子どもを育てるために、

いろいろな演奏を聴き比べるために必要な教材や資料を収集します。

表現と鑑賞の活動において、「比べる」学習の筋道を明らかにします。

「比べる」活動を対話とリンクさせることによって、楽しみながら学びの質が高まることをめざします。



田辺麻衣子・江田 司

# 教科部★紹介

体育科

## 新たな発見のある体育の学び

～ 「できる」「わかる」「かかわる」から体育科の『学び』を考える～

子ども同士が、また子どもと教師が運動のコツやルールづくりなどを媒体とした「かかわる」を通して、「できる」「わかる」体育学習を目指していきます。

「今までできなかったことができるようになった。」「どうすればこの技ができるようになるかわかった。」という「できる」喜び・「わかる」喜びにつなげていきたい。そのために、お互いのよさを認め合い教え合う関係を大切にしみとりと支援、手立てを探っていきます。

そうして「できる」「わかる」ようになったから「次はもっと高いレベルの技にもチャレンジしたい！」と目を輝かせながら体育の授業に取り組む、そんな子どもたちを育てていきます。そのために「かかわること」を重視した協同的な学びを進めていきます。

「できる」「わかる」「かかわる」をキーワードとして、運動・スポーツの特性、友だちのよさ、自分自身の変化などに気づいていく体育の学びを追究していきます。



谷口佳都司・上野佳彦・北端一喜

## 図画工作科 “感じる” “表す” 学びの連鎖

～ 感性を働かせて対象と向き合う～

「あの形いいな」「この色ステキ！」...そんな思いから、図画工作科の活動は始まっています。造形的な表現やまわりの人やものに関心を持ち、自分の感覚や感性が受け取るものに気づくことはとても大切な第一歩。そこから、自分の表したい感じを思いうかべ、イメージをふくらませ、材料や用具、表現方法を選び、自分のよさを発揮しながら自分らしい表し方をつくり出していきます。

そのような、“感じる”ことと“表す”ことを繰り返す中に学びの連鎖が生まれると考えます。

今年度の図画工作科は、子どもたちが感性を働かせて対象と向き合い、つくり出す喜びを味わうことができるような学習を目指します。



野崎紗代・西井恵美子

総合的な学習の時間

## 探究する学びを創る

～ “ほんまもん” 体験を通して *Change* する子ども～

本年度の総合部のキーワードは、*Change* です。

この *Change* に込められた思いは、子どもたちが「変わる」ことができる自分をもつということです。自分の価値観だけで物事を考えるのではなく、違う価値観との出会いを楽しみ、それを受け入れ歩み寄っていく過程において、探究する学びを創っていかうと考えています。さらに、自分たちの活動が、「自分」「友だち」さらには「社会」を「変える」ことができる学びを追究していきたいと考えています。

また、本年度の挑戦として、付けたい力を明確にしたカリキュラムづくりを行います。新学習指導要領では総合は章立てされ、各校のカリキュラム作成が必要となってきています。みなさまの参考になればと思っています。



神山求実・山中昭岳・鷹村誉子  
辻 伸幸・藤原ゆうこ・赤井泰子

# 教科部・夏季研★紹介

## 複式教育部 主体的に学び合う複式教育

～ 対話が生まれる場の設定をめざして ～

「異学年」「少人数」という複式学級の特性を生かします。

そのためにも、少ない人数の中で共に学び生活する個人と個人のかかわりを、重視していきます。そして学年と学年、あるいは学級と学級といった集団同士のかかわりも大事にしたいと考えます。

複式学級だからこそできるさまざまなペアや4人グループで、対話の場を模索していきます。また、対象や学年にあわせて対話の場を工夫していきます。そうすることで子どもたちのかかわり合いが深くなり、主体的に学び合う集団になると考えます。これからの複式教育のあり方をみなさんと一緒に考えたいと思いますので、一度本校にお越しください。お持ちしております。



三上祐佳里・市川哲哉・西村文成

# 夏季教科領域別研修会

和歌山大学教育学部附属小学校

2009年7月30日(木)～31日(金)

お申し込みは web・2次案内で  
<http://www.aes.wakayama-u.ac.jp/>

参加費：1000円

〒640-8137 和歌山市吹上 1-4-1  
Tel：073-422-6105 Fax：073-436-6470  
E-mail:fuzoku@center.wakayama-u.ac.jp

## 7月30日(木)

午前

9:30～12:00 (昼食・移動)

分科会 (附属小学校会場)

体育 / 楽しみながら仲間と技能を取得

複式 / 講演と交流会等

図工 / ICT 機器使ってワークショップ

午後

13:30～16:00

全体会 (和歌山県民文化会館小ホール)

講師 佐藤 学先生 (東京大学大学院教授)

岡本和夫先生 (東京大学大学院教授)

内容 / 3年生算数科提案授業とお二人の講師先生による対談を行います。

午前

9:30～12:00

社会 / こだわりをもって仕事をされている方のご講演他

総合 / 環境・食育の実践発表・ワークショップ等

午後

13:30～16:00

生活 / 和(なご)みカリキュラム・市生活科研の発表他

理科 / 実践発表・矢野英明先生 (帝京大教職大学院准教授) のご講演他

音楽 / 実践報告・佐野靖先生 (東京芸大大学院教授) のご講演他

終日

9:30～16:00

外国語活動 / 午前はワークショップ、午後は3人のゲスト (詳細は別紙案内状を参照) をお招きして国際理解のポイントを話し合う等

国語 / 午前は3つの実践報告と午後授業の指導案づくり、午後は伝統的な言語文化に親しむ内容で2年生と4年生の研究授業と研究協議等

## 7月31日(金)

全日分科会

(附属小学校会場)

# 第9回 複式授業研究会

主体的に学び合う複式教育  
～ 対話が深まる場の設定をめざして～

日時 平成21年6月19日(金) 10時40分～16時30分  
日程 10:20 10:40 11:25 11:40 12:25 13:45 16:30

受付 研究授業 移動 研究授業 昼食 研究協議会(全体会・分科会)

|                        |  |  |
|------------------------|--|--|
| 研究授業<br>1・2F<算数>:市川 哲哉 | 研究授業<br>3・4F<国語>:三上祐佳里<br>5・6F<理科>:西村 文成 | 研究協議会<br>全体会:複式提案<br>研究授業 について(算数の協議会)<br>分科会:研究授業 について(国・理の協議会) |
|------------------------|--|--|

## 共同研究開発校

| 教科等   | 学校名          | 校長       | 学校名          | 校長       |
|-------|--------------|----------|--------------|----------|
| 国語    | 和歌山市立 新南小学校  | 本多加江子 校長 | 和歌山市立 浜宮小学校  | 野田真知子 校長 |
|       | 和歌山市立 高松小学校  | 川端 良幸 校長 |              |          |
| 社会    | 和歌山市立 雄湊小学校  | 古川 博章 校長 | 和歌山市立 西脇小学校  | 三上 正芳 校長 |
| 算数    | 和歌山市立 本町小学校  | 山本 明広 校長 | 和歌山市立 砂山小学校  | 辻 民子 校長  |
| 理科    | 和歌山市立 宮北小学校  | 庄田 光伸 校長 | 和歌山市立 八幡台小学校 | 中村 民樹 校長 |
|       | 和歌山市立 雑賀小学校  | 三木 勇次 校長 |              |          |
| 生活    | 和歌山市立 有功東小学校 | 小松 龍三 校長 | 和歌山市立 宮北小学校  | 庄田 光伸 校長 |
| 音楽    | 和歌山市立 雑賀小学校  | 三木 勇次 校長 | 和歌山市立 城北小学校  | 津田 成章 校長 |
| 図工    | 和歌山市立 八幡台小学校 | 中村 民樹 校長 | 海南市立 南野上小学校  | 藤田 直子 校長 |
| 体育    | 和歌山市立 中之島小学校 | 横瀬 勤 校長  | 有田市立 保田小学校   | 前 吉昭 校長  |
| 総合    | 和歌山市立 有功小学校  | 南 良和 校長  | 和歌山市立 有功東小学校 | 小松 龍三 校長 |
| 外国語活動 | 和歌山市立 雄湊小学校  | 古川 博章 校長 |              |          |
| 複式    | 田辺市立 長野小学校   | 南 照男 校長  |              |          |

## STAFF

|       |                         |      |                        |        |       |
|-------|-------------------------|------|------------------------|--------|-------|
| 校長    | 川本 治雄                   | 副校長  | 北原 博男                  | 教頭     | 西村 充司 |
| 1 A   | 土岐 哲也                   | 1 B  | 中西 正子                  | 1 C    | 西井恵美子 |
| 2 A   | 谷口佳都司                   | 2 B  | 北川 勝則                  | 2 C    | 居澤 結美 |
| 3 A   | 片桐 宏                    | 3 B  | 宇田 智津                  | 3 C    | 中井 章博 |
| 4 A   | 上野 佳彦                   | 4 B  | 藤原ゆうこ                  | 4 C    | 須佐 宏  |
| 5 A   | 辻 伸幸                    | 5 B  | 馬場 敦義                  | 5 C    | 田辺麻衣子 |
| 6 A   | 梶本 久子                   | 6 B  | 北端 一喜                  | 6 C    | 山中 昭岳 |
| 1・2F  | 市川 哲哉                   | 3・4F | 三上祐佳里                  | 5・6F   | 西村 文成 |
| 音楽専科  | 江田 司                    | 栄養   | 神山 求実                  | 養護     | 鳶村 誉子 |
| 講師    | 赤井 泰子(家庭・支援)            |      | 野崎 紗代(図工専科)            | 大学院研修: | 辻本 和孝 |
| 非常勤講師 | 赤阪 健司                   |      | 井上 一晴                  | 大平 陽子  | 笠原 彩  |
|       | 佐原ちづよ                   |      | 高瀬 優佳                  | 藤田 裕子  |       |
|       | Ernie Wakefield Elliott |      | Thomas Russell Babcock |        |       |

### From Editors

『らいぶ・創りえいたー』も9年目を迎えました。  
「生き生きと本物を創り出すひと」という意味を込めています。本校ホームページにはカラー版を掲載しています。ご意見・ご感想をお寄せ下されば幸いです。  
編集委員:江田,藤原,三上,上野,梶本,市川

### 和歌山大学教育学部附属小学校

〒640-8137 和歌山市吹上1丁目4番1号  
TEL (073) 422-6105  
FAX (073) 436-6470  
URL <http://www.aes.wakayama-u.ac.jp>  
E-mail [fuzoku@center.wakayama-u.ac.jp](mailto:fuzoku@center.wakayama-u.ac.jp)